設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※　以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。　①:あてはまる　②:ややあてはまる　③:あまりあてはまらない　④:あてはまらない

設問 4　シラバスに沿って授業を行えた。

①:31（54%）　②:24（42%）　③:2（4%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 5　学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:31（54%）　②:25（44%）　③:1（2%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 6　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:21（37%）　②:30（53%）　③:5（9%）　④:0（0%）　未回答:1（2%）

設問 7　重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:30（53%）　②:25（44%）　③:2（4%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 8　学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:29（51%）　②:26（46%）　③:2（4%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 9　受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:36（63%）　②:19（33%）　③:1（2%）　④:0（0%）　未回答:1（2%）

設問 10　受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した　等）

①:44（77%）　②:13（23%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 11　授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:32（56%）　②:24（42%）　③:1（2%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 12　総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:29（51%）　②:24（42%）　③:4（7%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 13　シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:30（53%）　②:21（37%）　③:5（9%）　④:0（0%）　未回答:1（2%）

B（問 14～18）：FD活動についてお尋ねします。

設問 14　この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　16（28%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　20（35%）

③他大学の FD 活動の視察：　5（9%）

④その他：　7（12%）・・・「自己の授業反省」「自己の授業方法の改善試行」「Discussed with collegues appropriate methodologies」「小中高における授業参観」2、「学外における社会人対象とした TOEIC 授業を通しての情報収集」2

未回答：　24（42%）

設問 15　今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　17（30%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　29（51%）

③他大学の FD 活動の視察：　5（9%）

④その他：　3（5%）・・・「Peer Input regarding best teaching practices」「小中高における授業参観」2

未回答：　22（39%）

設問 16　昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、　　回答：13 クラス（順不同）

[1] プロジェクト・ベースド・ラーニング（PBT）で英語による作品を作り、成果報告で英語プレゼンするという活動を実施した。グループ学習だけでは「何のためにグループになるのか」という疑問があったこと、ただ英語プレゼンさせるだけでは、馴れ合いになってしまうことなどが昨年までの反省材料としてあった。今年は「意味のあるグループ活動」、「意味のあるプレゼン」という位置づけに成功したと思う。真剣に取り組んだ学生が多かった。・・・3 クラス

[2] 昨年度は、e－ラーニングを必修課題にし、実践練習に力を入れていましたが、もっと基本的なスキル(語彙・読解・リスニング)を強化することにフォーカスし、e－ラーニングは自主学習課題としました。・・・2 クラス

[3] 今年度から枠組み自体が変わったので、火曜日のクラスでは英文読解を Web を使ってその場で解答させるタイプのテキストを用いることで、学生の授業参加や意識の向上、読解技能の定着を図るよう努めた。また、1 章分は授業外の課題として次の授業時までに締め切りを定めて、Web 情のサイトに行って解答をするということを併用し、英文の読書量の全体的確保にも意を用いた。（教材の限界もあり、ライティングまでは取り扱えなかった。）

[4] 今年度から全体の枠組みが変わり、木曜日は発信型の授業内容となったことを承けて、前期は映画教材を用い、その映画に基づいたテキストを併用してシーン毎に語彙、英語表現や内容についてのグループディスカッション等を取り入れて双方向的授業を試みた。指示や説明等も出来るだけ英語を用いて、英語を実際に使うということを自ら示すことにも努めた。英語のミニレポートも書かせた。

[5] 英語エッセイを書く際にマッピングを活用するワークシートを作成した。

[6] Multiple Competence の考え方から、ワークシートに日本語も使用した。

[7] １）Roman Holiday(映画）のワークシートを、必要に応じて作り直した。

２）適宜グループ活動を取り入れることで、学生が学習しやすい環境をつくった。このことは、学生同士のつながりも気づけたと思う。

３）これまでは、スピーチの暗唱が主な活動だったが、これを、各自でオリジナルの発表原稿をつくってもらい、発表して

もらうようにすることでより自由度の高い発話内容となった。″

[8] テキストの訳読がうまくいかないことがあったが、グループ活動やペアワーク、プレゼンなども取り入れて、丁寧に読みながらも楽しく読めるように工夫した。特に、ペアによるパフォーマンスは、新しい試みであり、個人での発表よりもやる気を引き出せたと思う。

[9] 予習用の資料の改善を行った。

[10] パワーポイント資料を多く活用した。

設問 17　自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：　25 クラス（順不同）

[1] 授業の形式が斬新だと好意的な意見がある一方で、全く初めての形式でどうなるかわからないという不安を抱えてしまった学生もいた。評価基準などを明確に示すことなど、さらに細かい配慮が必要と感じた。・・・3 クラス

[2] 教育・工・農のミックスで、英語コミュニケーションのクラスであり、かつ４０人のクラスサイズということで、⑴出来る限り専門を同じくするグループを作成して共同作業を多くし、⑵各専門でトピックを選んでもらい、読み物の準備とプレゼンを行なった。

⑴のグループ活動は機能していたが、４０人というクラスサイズのため、各グループへのサポートが十分できなかった点がある。⑵は、他の専門の話を聞いたり読んだりすることに、控えめの受講者もいたようだ。このクラスでは、各受講者の専門を重要なリソースと見なして、積極活用して授業を行なった。″

・・・2 クラス

[3] 受講生同士の良好な関係を作ることにより、学習意欲が向上した。・・・2 クラス

[4] 学習記録シートを毎週記録・提出させることによって、個々の学生の学習状況を把握するとともに、アドバイスを返すなど、学生とのコミュニケーションを図ることを心がけました。・・・2 クラス

[5] ポートフォリオ(毎回のコメント記入等)で学生からの声を吸い上げ、次回に生かすよう心がけた。小テスト等の実施で家庭での自学自習をさせるようにした。学生のすべてのデータを PDF 化しておく。

[6] I'm considering new forms of grading and evaluation using interviews. ・・・5 クラス

[7] TOEIC の授業ではあるが、Global な視点に立った授業内容にするよう心がけていた。

[8] TOEIC の授業だったが、敢えて Speaking / Writing（SW）テスト対策に取り組んでみた。選んだテキストが学生に難しかったようで、ワンランク下のテキストを選ぶべきであった。

また、SW テストには 300 語のエッセーがあるが、これに早い時期から取り組むべきだった。簡単な問題から徐々にレベルアップしていくシラバスを組んでいたが、習得に時間のかかるスキルに早めに着手する方がよかった。″

[9] 工学部１年生のクラスであり、⑴専門への橋渡しになる内容の提供と、⑵基礎的な事項を押さえること、⑶また事前の調べ物のタスクを設定して、クラス内では協同学習をとり入れた。

⑴⑵⑶いずれの点についても、期末テストの結果を考慮に入れても、比較的うまくいったと考えている。⑶はウェブ上にてリソースを提供することにより、ある意味でのアクティブラーニングの方向性で授業を進めることが出来たと考えている。″

[10] ⑴工学部１年生のレベル別では最も elementary のクラスということで、専門性につながり、かつ基本的な事項も押さえる授業を目指した。⑵また、授業前の予習に関して、毎回学生に調べものをしてもらい、授業でその内容を深める形をとった。その際、調べものの資料もできるだけウェブで提供した。

⑴については、テキストが受講生のレベルより少し難しく、確実に全ての学生の理解を確認できてはいなかった。もう一段階丁寧な足場かけが必要だと感じた。⑵については、ある程度手応えを感じ、またうまくいったと思う。この方向での実践の充実をはかりたい。″

[11] 評価できる点

学生を英語圏での慣例にしたがってファーストネームで呼ぶことを実践してみたが、思いのほか好評であった。また、グループ学習によって、授業への参加が積極的になったように思われる。

反省すべき点

各自でつくった発表原稿を、発表前に教員がチェックすることができず、学生同士のチェックに任せることになった。（ただし、発表後には、評価の対象にすると同時に、チェック後、返却した。）45 名の授業では、やむを得ないが、今後よりよいやり方があれば採用したい。″

[12] 英語による意見発表はグループワークにとどまったため、まだ手ぬるいものに終わってしまいました。後学期は早々からクラスの前での発表を念頭に進行していこうと思います。

[13] 読解の活動の時に、初めてグループ学習をとりいれて、学生同士で教えあうようにしてみたが、うまくいった班があるものの、あまりうまくいかない班もあり、あわてて授業を組み立てなおした。読解については、教員による指導が大切だと思う。

The Little Prince のテキストを使ったのは正解だった。最後に感想の発表をしてもらったが、非常にレベルの高い感想があり、よかったと思う。″

[14] 学生が到達目標に届かなかったが、大学人としてのミニマムエッセンシャルとしても目標設定であるため、目標は下げない。

[15] The good points were that I was able to have the students create output in terms of English.　They were given many activities that forced them to speak to each other in English.　This was my plan knowing that many of these students don't get a chance to use their English often.　Bad points are that there was not enough time to really build on all aspects of English learning.

[16] 学生が身近に、より多くの英文に触れることのできるよう、図書を増やすことが出来ると良いと思う。

(Graded Readers や雑誌など)″

設問 18　FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：　なし

C（問 19～21）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19　授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：　41（72%）　　②いいえ：0（0%）　　未回答：　16（28%）

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20　下記のどの点を重視しましたか？（**複数回答可**）

①聞いて理解する：　30（53%）

②読んで理解する：　36（63%）

③自分の考えをまとめて話す：　36（63%）

④自分の考えを文章にまとめる：　13（23%）

⑤討論する：　5（9%）

⑥皆の前でプレゼンテーションする：　7（12%）

⑦その他：　3（5%）

「相手との良好な関係を結ぶコミュニケーションをする」2、　「物ごとを（正確に）描写する」

未回答：　12（21%）

設問 21　「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答：　25 クラス（順不同）

[1] The entire course is based upon communicative groupwork, teamwork, and pairwork. ・・・5 クラス

[2] 協働学習グループを作り、グループで協力しないと出来ない課題を出した。

[3] グループ活動を実施し、グループで話し合わなければできないような課題を課すことで、グループ内のコミュニケーションは密にとれたようだった。作品を外部に公開する条件にしたことで、真剣な話し合いがみられた。・・・3 クラス

[4] クラス全体でレベルが高いと判断したので、ペアワークを多用したリーディング・スピーキング演習が行えた。

[5] CD を使って、パラレルリーディングを数回実施。

[6] CD のパラレルリーディングを毎回やることで英語の音に親しんでもらった。

[7] 毎回 CD を使ってパラレルリーディングを実施。

自宅での活用も徹底してやって欲しかった。"

[8] テキストについている CD を自宅で聞くよう指導。クラス内でも、授業前に CD を流すなどした。

[9] ペアをつくり、各々、テキストの一場面を選ばせて、皆の前で演じてもらった。練習の時間を設けて、おのおの自由な発表をしてもらった。自主性と独自性、また、ペアの相手への思いやりの感じられる発表内容があり、大変良かったと思う。

[10] 授業内で、描写のスピーキングタスクを何度も行なった。

[11] プレゼンをグループ単位で実施した。また、プレゼンについてのコメントをウェブ上の掲示板を通して行なった。

[12] 各グループ単位で、専門に関連するトピックについてのプレゼンを行なった。また各プレゼンに関するディスカッションをウェブ上の掲示板にて行なった。

[13] I have the students learn as much vocabulary and communication methods as possible in order to facilitate their rapid acquisition of communication skills especially in speaking and listening.

[14] 授業の開始時に毎回小グループで一分間スピーチを習慣づける。

自分の考えをまとめて他人に話すため、その前段階として関連題材を各自予習して授業に臨むことを義務づける。"

[15] 英語圏の慣例に従って、クラスではファーストネームで呼ぶことを実践してみた。また、グループ学習を取り入れ、授業内で学生同士が話合う機会をなるべく多く作った。このスタイル以前よりも、学生の授業への取り組みが積極的になったと思われる。

[16] 英語に対して苦手意識を持つ学生が割合的に多いと見受けられるので、短い記事を英語で用意し、とにかく読むことに慣れさせる学習をする。後期はこの要素に書く要素を組み込みたいと思う。

[17] リーディングとライティングの授業だったため、その2つにウェイトを置いた授業展開を行った。ただ、スピーキングも織り交ぜて、記述／描写（description）の練習を行なうとともに、表現の楽しさと動機づけの向上をはかった。

[18] 写真描写問題はほぼ全員が授業の目標を達成した。位置関係や動作を正確かつ十分な量で話すことができるようになった。

[19] TOEIC の授業なので出来るだけ多く問題を解くことに時間を費やしたので、コミュニケーションの部分は扱ってない。

ただ、学習中に変化をつけるため、ペアワークでのリーディング演習を多く採用した。"

D（問 22～25）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22　授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：　8（14%）　②いいえ：　27（47%）　未回答：　22（39%）

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23　その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①１～５回：　7（12%）　②６～10 回：　0（0%）　③11～15 回：　1（2%）

未解答：49（86%）

設問 24　「地域」のどのような分野を取り上げていますか？**（複数回答可）**

①歴史・文化：　4（7%）　②政治・経済・産業：　1（2%）　③自然環境・フィールド体験：　2（4%）

④その他：1（2%）・・・「「おすすめの場所を紹介する」など」　未回答:　50（88%）

設問 25　「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：　6 クラス（順不同）

[1] 自己紹介のライティングにおいて、各自の出身地について紹介をしてもらうタスクを行なった。

[2] 自己紹介の活動の際、出身地の紹介文を書く活動を行なった。その際、宮崎の出身者は宮崎についての記述を行い、他県の出身者はそれぞれ自分の出身地について書いた。「地域の特徴的な場所や生活を紹介する」というスキルの向上をはかった。

[3] 故郷をアピールするプレゼンをさせた。

[4] 自分の故郷の誇り(大好きな)と思える部分をプレゼンテーションしてもらった。

[5] 農学部のグループが、アメリカでの地産地消の取り組みを紹介し、それに関連して、宮崎も含めた地産地消の議論をウェブで行なった。

[6] 農学部のグループが、サンゴについてとりあげ、宮崎の海についても話をした。続いて、宮崎も含めた、環境問題についてウェブでディスカッションした。